<table>
<tr><td>授業名</td><td colspan="3">地域課題 PBL　C（ものづくり提案型）</td></tr>
<tr><td>英文授業名
※大学によっては英文成績通知書の記載のために必要となりますので，必ずご記入ください。</td><td colspan="3">Regional Problem-Based Learning Course C (Digital Fabrication for Solutions)</td></tr>
<tr><td>開講期間</td><td colspan="3">2026 年度前学期</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td colspan="3">2 単位</td></tr>
<tr><td>授業提供大学</td><td colspan="3">信州大学</td></tr>
<tr><td>主担当教員氏名</td><td colspan="3">北　直樹</td></tr>
<tr><td>副担当教員氏名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">授業のねらい
※該当しないもの行は削除してください。

※授業で得られる地域活性化人材の能力と対応するように本授業の達成目標を設定してください。

※「～することができるようになる」「～することができる」という形での目標設定を推奨します。</td><td>授業で得られる
地域活性化人材の能力</td><td>⇔</td><td>本授業の達成目標</td></tr>
<tr><td>α　信州の活性化に係る知識・技能</td><td>⇔</td><td></td></tr>
<tr><td>β　信州の活性化に係る課題を発見・解決するための思考力・判断力・表現力</td><td>⇔</td><td>・地域課題を自ら設定し、調査・分析を通じてその構造的背景を理解できるようになる。
・自身の専門分野の知識・技能を活用して、課題解決の方向性を企画・提案できるようになる。</td></tr>
<tr><td>γ　信州の活性化に係る課題を主体的・対話的に発見・解決しようとする態度</td><td>⇔</td><td>・他者との対話を通じて、多様な視点を統合しながら協働的にプロジェクトを遂行できるようになる。</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>授業の概要</td><td colspan="3">本授業は、地域社会が抱える具体的な課題を題材に、学生が自ら「課題設定」から「解決策の提案」摩
でを行う PBL（Problem-Based Learning）形式の科目である。
学生は、連携先の自治体・企業・NPO 等から提供されるテーマに基づき、調査・対話・試行・提案のプロセスを実践する。教室での学習に留まらず、現場での活動を通じて多様な主体と協働し、地域活性化に資する実践的な能力（課題発見力・解決力・対話力）を習得することを目的とする。
本科目は共通の全体構造に基づき設計されているが、コースごとにアプローチ手法（モノづくり、フィールドワーク、ワークショップ等）が異なる。
本講座は、【 C コース（ものづくり提案型） 】として実施する。</td></tr>
<tr><td>授業の計画</td><td colspan="3">本授業は、学生が主体となり、自治体・企業・NPO 等の「受入主体」と連携して地域課題の解決に挑む実
践型プログラムである。学習プロセスは、以下の 5 段階で構成される。
①インプット：地域の現状や背景を深く理解し、情報を収集する。
②課題設定：現状分析に基づき、解決すべき本質的な問題を特定する。
③ワーク：課題解決に向けた具体的な提案を練り上げ、実践と検証を行う。
④発表：成果を可視化し、プレゼンテーションを行う。
⑤評価：活動プロセスと成果を振り返る（ポートフォリオの記入）。
各コース（テーマ）の特性に応じた柔軟な期間・手法を用いつつ、学内外で実施する。最終成果は最終
回までに報告発表し、加えて全コース合同の発表会にて共有し、多様な視点からの学びを深める。</td></tr>
</table>

	内容 【第1回】ガイダンス・プロジェクトの理解 　授業の目的、PBLの進め方、評価方法を説明するとともに、地域活性化をテーマとしたプロジェクトの概要と最終ゴールを共有する。 【第2回】アイデア具現化方法修得のための設計演習①（モデリング） 　CADソフトを用いた設計方法についての演習を通じてアイデアの具現化方法を修得する。 【第3回】アイデア具現化方法修得のための設計演習②（レンダリング） 　設計に対して、素材（マテリアル）の割り当てや可視化（レンダリング）方法を修得する。 【第4回】現場理解①（ヒアリング・フィールドワーク等） 　地域や現場に関わる当事者からの講話等を通じて現場視点での課題の理解を深める。 【第5回】現場理解②（外部講師による設計・製造事例紹介） 　3Dプリンタ製造メーカーの技術担当者からの講話等を通じて、ものづくりによるソリューション事例について理解を深める。 【第6回】現場理解③（工学部技術職員によるものづくり拠点紹介） 　工学部技術職員からの工学部ものづくり拠点の紹介を通じてプロトタイプ製作のための機材について理解を深める。 【第7回】アイデア発想とグループ編成 　課題解決に向けたアイデア発想の方法を習得する。あわせてグループ編成を行う。 【第8回】課題解決提案の作成①（コンセプト設計） 　グループごとに課題解決に向けた企画案の作成、進行や役割分担の確認を行う。 【第9回】課題解決提案の作成②（具体化・ブラッシュアップ） 　課題の条件を整理し、実現可能性の観点から提案内容を検討・改善する。 【第10回】課題解決提案の中間報告 　グループごとに課題解決のための提案内容についての進捗状況を発表・共有し、以降の課題解決実践取り組みの計画を立てる。 【第11回】課題解決実践①（役割分担） 　グループごとに提案に向けた準備を行い、進行や役割分担の確認、プロトタイプ製作を行う。 【第12回】課題解決実践②（準備作業） 　グループごとに提案に向けた発表資料（ポスター、3Dプリントなど）の準備を進める。 【第13回】課題解決実践③（準備作業） 　グループごとに提案に向けた発表資料（ポスター、3Dプリントなど）の準備を進める。 【第14回】発表・評価①　成果発表に向けた分析・振り返り 　実践内容や成果を振り返り、課題・取組内容・成果・学びを整理した発表資料を作成する。 【第15回】発表・評価②　成果発表・ポートフォリオ作成 　チームごとに成果発表を行うとともに、活動プロセスと成果を振り返り、ポートフォリオを作成する。また、授業アンケートを実施する。 【合同成果発表会】発表・評価③ 　相互評価の場として開催し、他プロジェクトや関係者との合同成果発表を行い、学びを共有するとともに地域や社会への発信を行う（後期に開催予定で、参加は任意ですが、参加を推奨する）。 ・地域の方や協力者を招いた公開報告会での講評と総括

評価 ※100 点満点の点数をどのように付けるのかを記載ください。（小テストの回数や配点等）	・課題設定と分析：20 点 ・中間発表とフィールドワークへの参加：20 点 ・最終提案と発表：30 点 ・個人ポートフォリオおよび最終レポート：20 点 ・協働的態度と学習姿勢：10 点 合計：100 点 ※合同成果発表会や公の場（県や大学が主催する取組報告会や事例発表会等）で発表をした場合は、成績評価を加点する。
事前事後学習の内容	【事前学習】地域課題・テーマに関する調査、参考事例の確認 【事後学習】ポートフォリオの記録、学びの振り返り、レポート作成
履修上の注意	・授業の詳細な内容は、各コースの LMS・ガイダンス等で説明するので、確認の上受講をしてください。 ・グループワークが中心となるため、出席と積極的な関与が求められる。 ・外部機関との連携や現地での活動があるため、受講にあたってはフィールドワークがあることを留意してください。授業のガイダンスで内容を確認の上、受講してください。 ・授業は不定期集中で実施する。講義は各地を繋いで実施するため、オンライン／オンデマンドを用いて実施することがある。
教科書	指定しない。
参考書	【参考書】インターネットや動画サイトで公開されている CAD/3DCG ソフト（Tinkercad、Blender）、3D プリンタ等のチュートリアルに目を通しておくことが望ましい。